

桂林莊雜詠諸生に示す（その四）
広瀬淡窓

長鋏 帰りなん 故国の 春

時々 努めて 払う 簡編の 塵

君 看よ 白首 無名の 者

曾て 是れ 経を 談じて 席を 奪いし 人

長鋏歸來故國春 時時務拂簡編塵
君看白首無名者 曾是談經奪席人

解説 桂林莊での業を修めて、故郷に帰らんとする塾生へのはなむけの詩。

語釈 ※長鋏＝長劍のこと。ここでは去らんとすることを表す語となっている。※帰りなん＝帰ろう。

※故国＝故郷。※時々＝常に。※簡編＝書物のこと。※白首＝白髪と同義。※談經奪席人＝学問にずばぬけて精通している人のこと。

通釈 塾で学業を修めて、さあ帰ろう故郷の春へ。だが、安閑としてはられない。常に書物を繙いて勉強に務めなければならぬ。見てごらん、いま、白髪になって名もなく埋もれている者を。この男だつて昔は学問に優れていると評判だった。そのように研鑽を続けなければついに無名の田舎おやじで終わってしまう事を忘れてはならない。